別紙２

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に関する アンケート調査結果（要旨）【全地区】

1. 調査概要

目的	市立小・中学校の適正規模・適正配置の方策検討に係る基礎資料として、児童・生徒※1（以下「児童等」という。）の保護者、未就学児の保護者、地区住民の皆様の意識を把握するため		
調査名	厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に関するアンケート調査		
種別	児童等の保護者	未就学児の保護者	地区住民
調査対象	9つの小学校（荻野・鳶尾・上荻野・小鮎・飯山・玉川・森の里・毛利台・愛甲※2）、2つの中学校（玉川・森の里）に在籍する全ての児童等及び同学校の通学区域に在住する全ての未就学児の保護者		荻野・小鮎・玉川・森の里の各地区に在住する 18 歳以上の市民（無作為抽出）
実施期間	令和5年1月 31 日～2月 17 日		同5年2月3日～2月 20 日
配布数※3	2,083 人	861 人	4,416 人 （各地区 1,104 人）
合計	7,360 人		
回答者数 （回答率）	820 人（39.4%）	274 人（31.8%）	1,680 人（38.0%）
合計	2,774 人（37.7%）		

【地区別回答者数内訳】

荻野	235 人（35.3%）	88 人（32.8%）	345 人（31.3%）
小鮎	151 人（34.3%）	69 人（27.5%）	342 人（31.0%）
玉川	297 人（41.0%）	88 人（30.2%）	438 人（39.7%）
森の里	137 人（54.2%）	29 人（56.9%）	555 人（50.3%）

※1…本アンケートでは「児童」は市立小学校に通う小学校1～6年生、「生徒」は市立中学校に通う中学校1～3年生を指します。

※2…愛甲小学校については、玉川中学校の通学区域に在住する児童及び未就学児のみアンケートの対象としています。

※3…1世帯につき1アンケート調査を送付しています。複数の児童等や未就学児がいる場合、調査票は最も年長のお子様の区分で集計しています。

例）1世帯に、森の里中学校生徒と森の里小学校児童の2人がいる場合、森の里中学校の生徒として集計

2. 設問概要

設問区分	設問内容	設問回答対象
（1）地区の子どもを取り巻く環境について	地区の子どもを取り巻く環境の認知状況	児童等及び未就学児の保護者、地区住民
（2）適正規模について	適正規模の範囲の妥当性及びその理由、クラス替えの必要性	児童等及び未就学児の保護者
（3）学校規模適正化の方策について	学校規模適正化で重視すべきこと	
（4）地域における学校の役割について	学校に行く頻度や理由、地域における学校の役割、教育環境の充実以外で考慮すべきこと	地区住民
（5）地域に学校を維持することついて	地域・地区に学校を維持すること	児童等及び未就学児の保護者、地区住民
（6）適正規模・適正配置の取組への意見等について	取組に対する意見や提案	

3. 調査結果概要

※設問の選択肢は、場合により語句を簡略化しています。

※選択肢「その他」は順位に含めていません。

（1）地区の子どもを取り巻く環境について

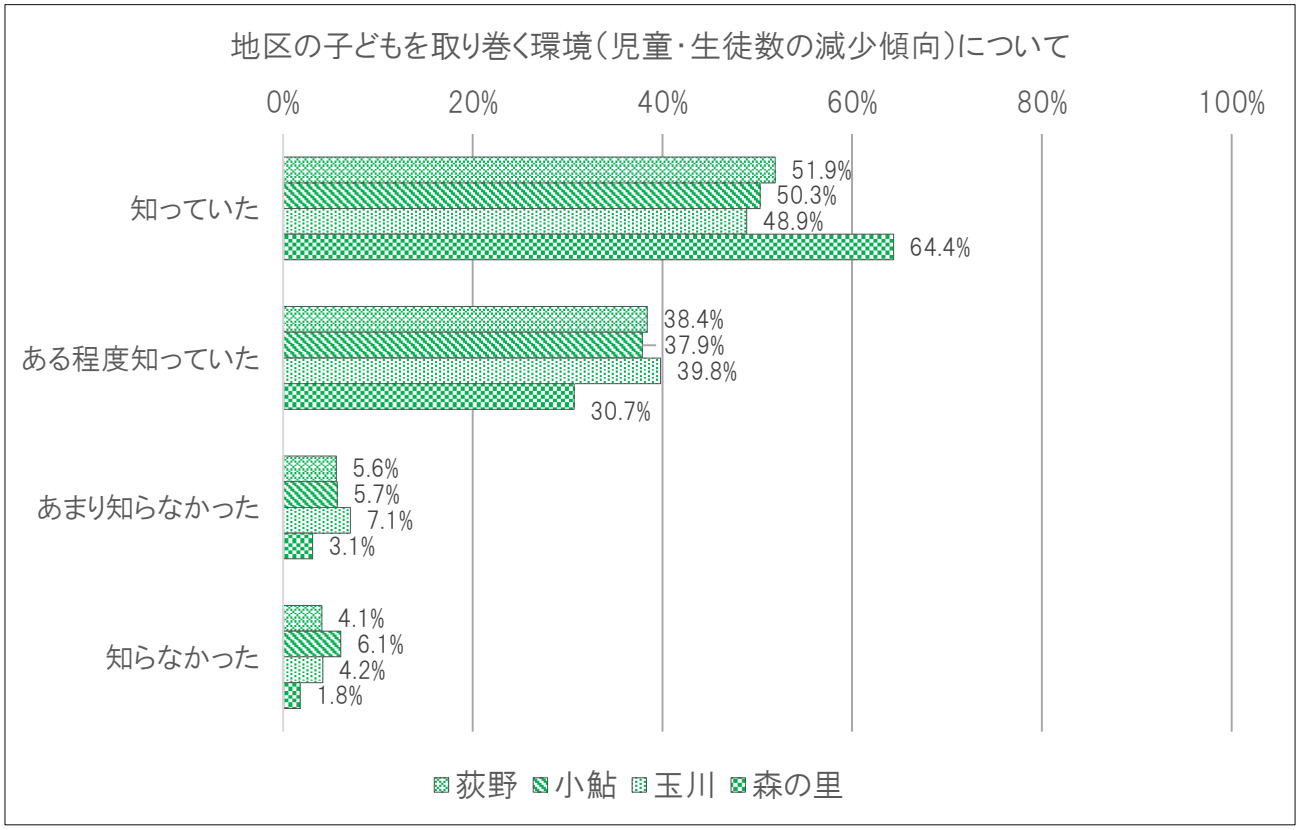
① 地区の子どもを取り巻く環境（児童・生徒数の減少傾向）について

地区	1位		2位		3位	
荻野地区	知っていた	51.9%	ある程度知っていた	38.4%	あまり知らなかった	5.6%
小鮎地区		50.3%		37.9%	知らなかった	6.1%
玉川地区		48.9%		39.8%	あまり知らなかった	7.1%
森の里地区		64.4%		30.7%		3.1%

回答の傾向

・全ての地区において、「知っていた」、「ある程度知っていた」の合計が 90%程度と高い割合になっており、地区の児童等の減少傾向について一定程度認識していると考えられる。

・各地区の比較でも、それほど大きな差異はない。



（2）適正規模について

① 方針で定めている適正規模の範囲について

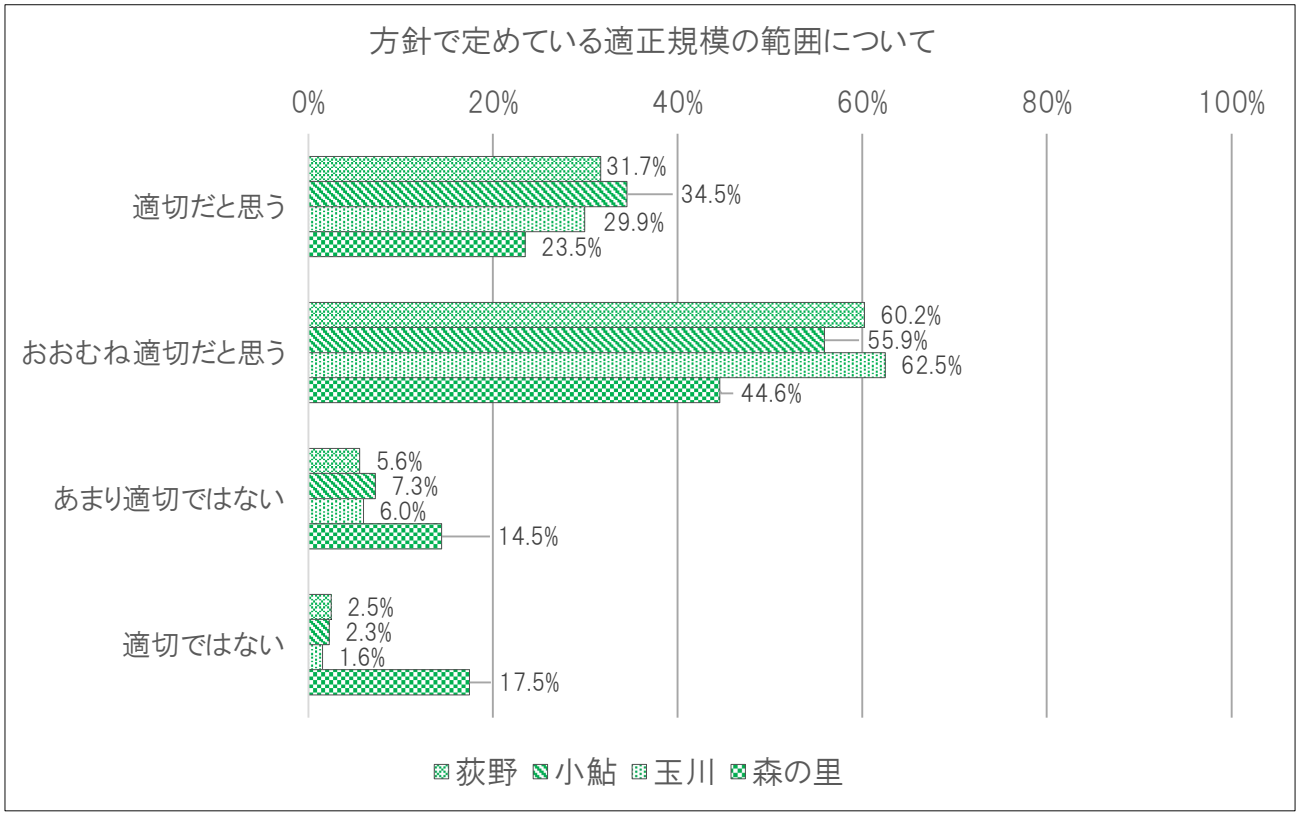
地区	1位		2位		3位	
荻野地区	おおむね適切だと思う	60.2%	適切だと思う	31.7%	あまり適切ではない	5.6%
小鮎地区		55.9%		34.5%		7.3%
玉川地区		62.5%		29.9%		6.0%
森の里地区		44.6%		23.5%	適切ではない	17.5%

回答の傾向

・全ての地区において、「適切」、「おおむね適切」の選択割合が高くなっており、荻野・小鮎・玉川地区では、2つを合わせた選択割合が 90%を超えている。

・森の里地区は、「適切」、「おおむね適切」を合わせた選択割合が 70%程度、「適切でない」、「あまり適切ではない」を合わせた選択割合が 30%程度となっており、他の地区とは異なる傾向が見られる。（「適切でない」、「あまり適切ではない」を合わせた選択割合は、他地区と比較し4倍程度高くなっている。）

・全ての地区において、保護者は方針で示している学校の適正規模の範囲について、ある程度妥当性があると捉えていると考えられる。（特に荻野、小鮎、玉川地区はその傾向が強くみられる。）



【①で「適切」、「おおむね適切」の選択者のみの設問】

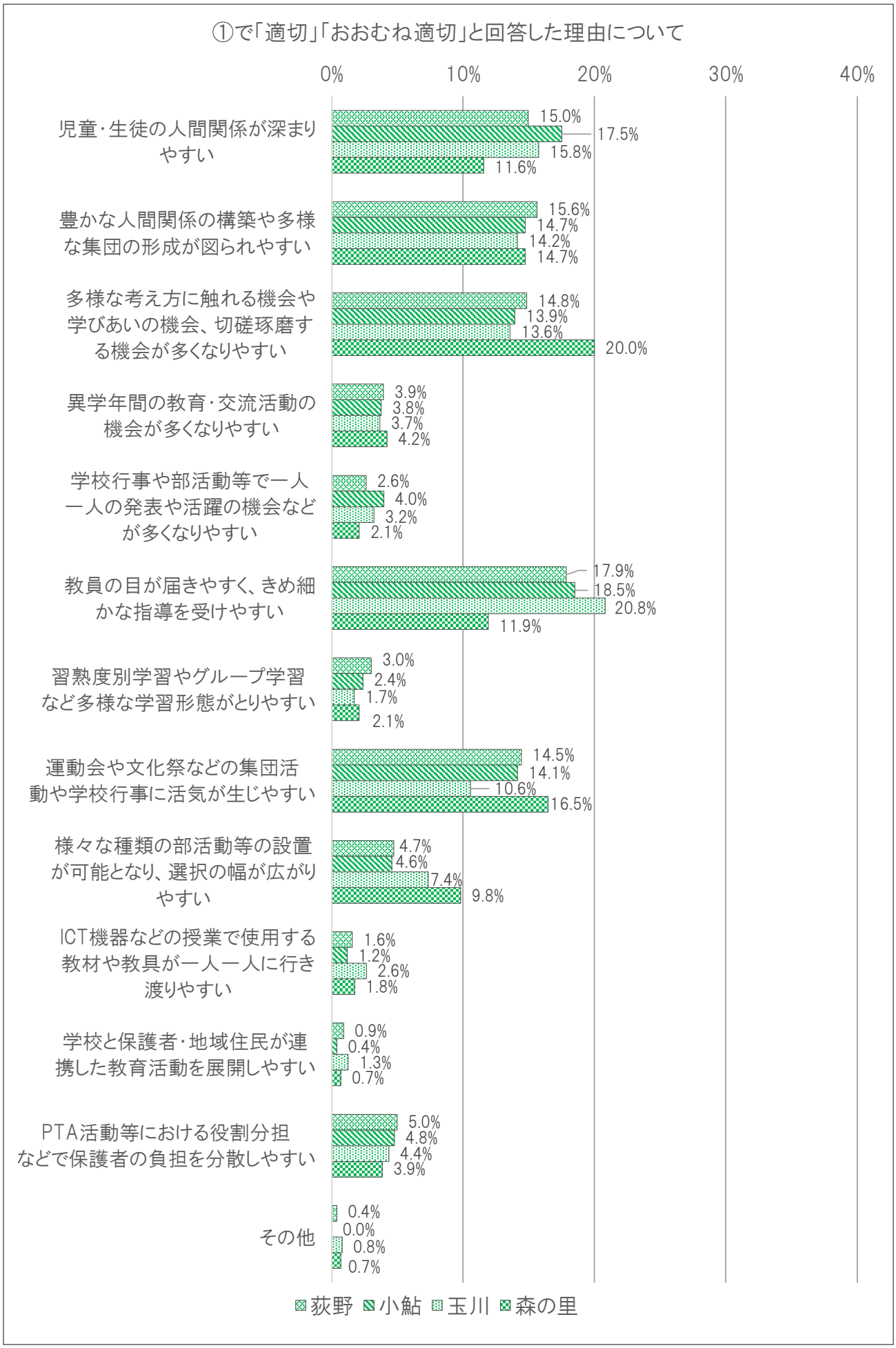
② ①で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について（3つまで選択可）

<table>
<tr><th>地区</th><th colspan="2">1位</th><th colspan="2">2位</th><th colspan="2">3位</th></tr>
<tr><td>荻野地区</td><td rowspan="3">教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい</td><td>17.9%</td><td>豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい</td><td>15.6%</td><td>児童・生徒の人間関係が深まりやすい</td><td>15.0%</td></tr>
<tr><td>小鮎地区</td><td>18.5%</td><td rowspan="2">児童・生徒の人間関係が深まりやすい</td><td>17.5%</td><td rowspan="3">豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい</td><td>14.7%</td></tr>
<tr><td>玉川地区</td><td>20.8%</td><td>15.8%</td><td>14.2%</td></tr>
<tr><td>森の里地区</td><td>多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい</td><td>20.0%</td><td>運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい</td><td>16.5%</td><td>14.7%</td></tr>
</table>

回答の傾向

・荻野・小鮎・玉川地区では小規模な学校で考えられるメリット・大規模な学校で考えられるメリットの両方を意識した選択がなされており、1～3位にそれぞれが混在している。

・森の里地区では、1～3位の全てで大規模な学校で考えられるメリットを意識した選択となっている。


①で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について
0%
10%
20%
30%
40%
児童・生徒の人間関係が深まりやすい
15.0%
17.5%
15.8%
11.6%
豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい
15.6%
14.7%
14.2%
14.7%
多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい
14.8%
13.9%
13.6%
20.0%
異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい
3.9%
3.8%
3.7%
4.2%
学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい
2.6%
4.0%
3.2%
2.1%
教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい
17.9%
18.5%
20.8%
11.9%
習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
3.0%
2.4%
1.7%
2.1%
運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい
14.5%
14.1%
10.6%
16.5%
様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい
4.7%
4.6%
7.4%
9.8%
ICT機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい
1.6%
1.2%
2.6%
1.8%
学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
0.9%
0.4%
1.3%
0.7%
PTA活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい
5.0%
4.8%
4.4%
3.9%
その他
0.4%
0.0%
0.8%
0.7%
荻野
小鮎
玉川
森の里

【①で「あまり適切でない」「適切でない」の選択者のみの設問】

③ ①で「あまり適切でない」「適切でない」と回答した理由について（3つまで選択可）

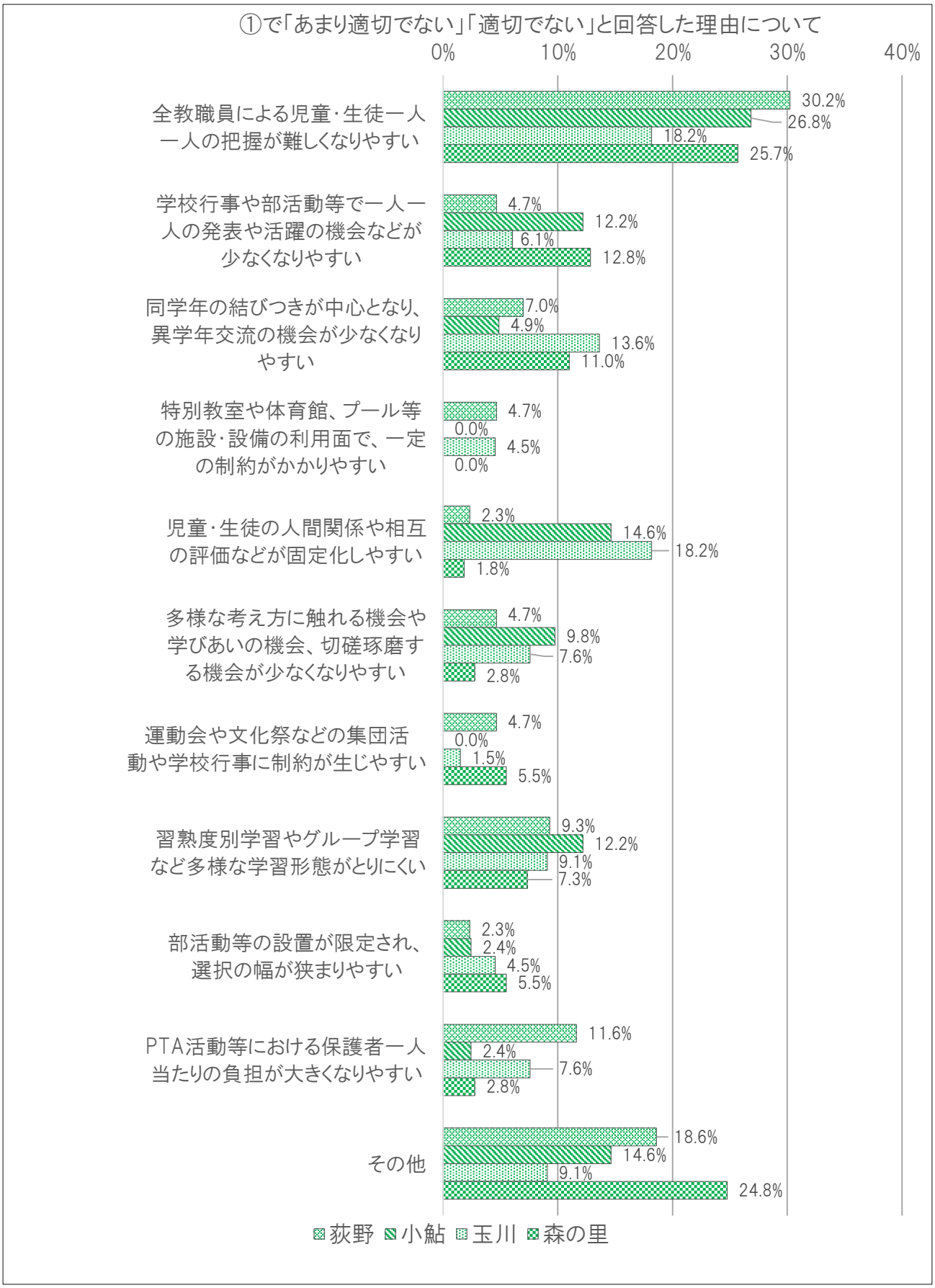
<table>
<tr><th>地区</th><th colspan="2">1位</th><th colspan="2">2位</th><th colspan="2">3位</th></tr>
<tr><td>荻野地区</td><td rowspan="4">全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい</td><td>30.2%</td><td>PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい</td><td>11.6%</td><td>習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい</td><td>9.3%</td></tr>
<tr><td>小鮎地区</td><td>26.8%</td><td rowspan="2">児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい</td><td>14.6%</td><td>学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい（ほか1件同率の回答あり）</td><td>12.2%</td></tr>
<tr><td>玉川地区</td><td>18.2%</td><td>18.2%
※同率1位</td><td rowspan="2">同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少なくなりやすい</td><td>13.6%</td></tr>
<tr><td>森の里地区</td><td>25.7%</td><td>学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい</td><td>12.8%</td><td>11.0%</td></tr>
</table>

回答の傾向

・全地区で「児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい」（大規模な学校の課題）が最も高い選択割合になっている。玉川地区を除くと、2位と比較し、2～3倍程度選択割合が高くなっており、方針で示している適正規模だと、大規模な学校で考えられる課題が出ることを意識している保護者が多いものと考えられる。

・2位以下は、大規模な学校で考えられる課題と小規模な学校で考えられる課題が混在しており、方針で示している適正規模が小さすぎると考える保護者と大きすぎると考える保護者の両方が存在すると考えられる。

・1～3位全体では大規模な学校で考えられる課題を意識している保護者の割合が高いものと考えられる。


①で「あまり適切でない」「適切でない」と回答した理由について
0%
10%
20%
30%
40%
全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい
30.2%
26.8%
18.2%
25.7%
学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい
4.7%
12.2%
6.1%
12.8%
同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少なくなりやすい
7.0%
4.9%
13.6%
11.0%
特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい
4.7%
0.0%
4.5%
0.0%
児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい
2.3%
14.6%
18.2%
1.8%
多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
4.7%
9.8%
7.6%
2.8%
運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい
4.7%
0.0%
1.5%
5.5%
習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい
9.3%
12.2%
9.1%
7.3%
部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい
2.3%
2.4%
4.5%
5.5%
PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい
11.6%
2.4%
7.6%
2.8%
その他
18.6%
14.6%
9.1%
24.8%
荻野
小鮎
玉川
森の里

④　学年内でクラス替えができることの必要性

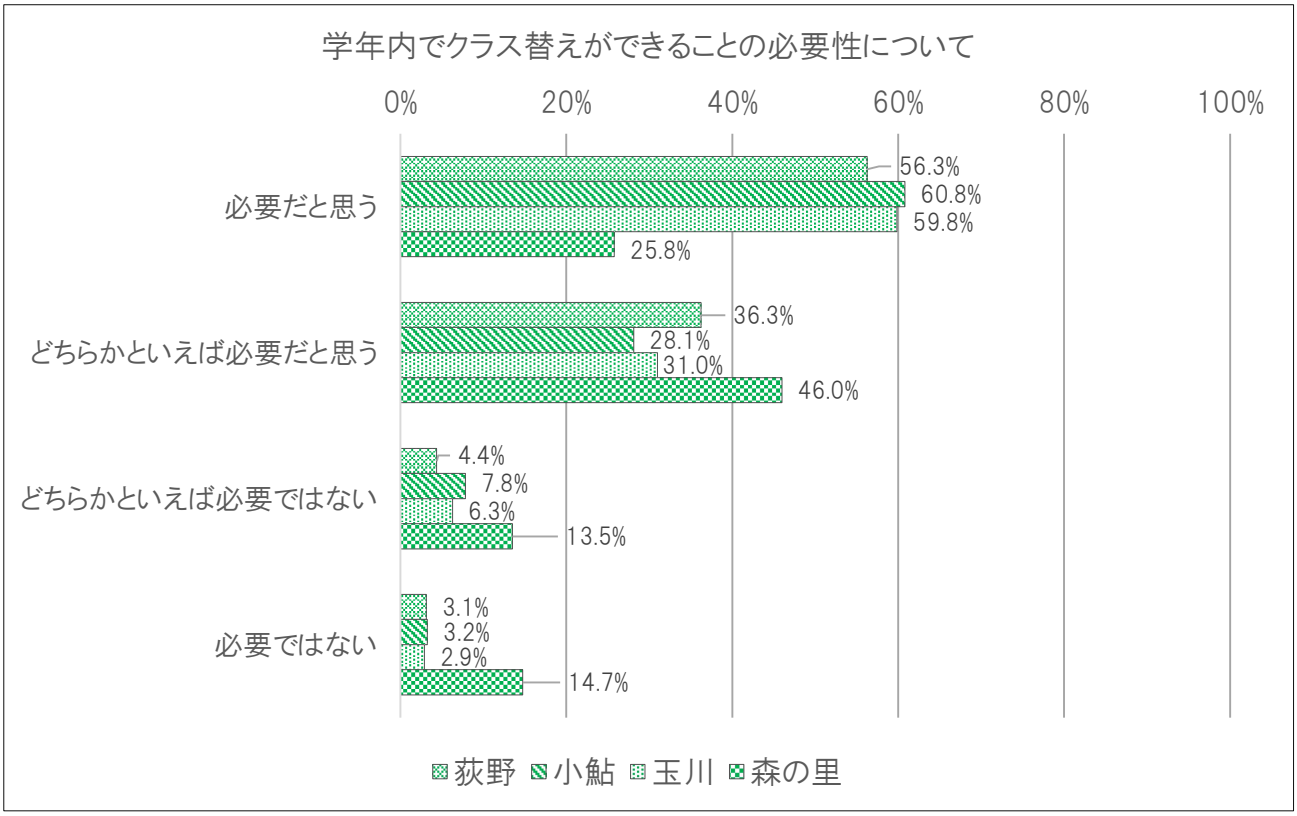
地区	1位		2位		3位	
荻野地区	必要だと思う	56.3%	どちらかといえば必要だと思う	36.3%	どちらかといえば必要ではない	4.4%
小鮎地区		60.8%		28.1%		7.8%
玉川地区		59.8%		31.0%		6.3%
森の里地区	どちらかといえば必要だと思う	46.0%	必要だと思う	25.8%	必要ではない	14.7%

回答の傾向

・全ての地区で「必要」、「どちらかといえば必要」を合わせた選択割合が高くなっており、荻野・小鮎・玉川地区では 90%程度に達している。

・森の里地区は、「必要」、「どちらかといえば必要」を合わせた選択割合は 70%程度であり、他の3地区で1位の「必要」が、2位の「どちらかといえば必要」の2倍程度の選択割合になっているのに対し、森の里地区は「どちらかといえば必要」が1位となっている。（また、「必要ではない」、「どちらかといえば必要ではない」を合わせた選択割合が 28%程度あり、他地区と比較し3倍程度高くなっている。）

・全ての地区において、保護者はクラス替えができることの必要性について、一定程度肯定的に捉えていると考えられる。（特に荻野、小鮎、玉川地区はその傾向が強くみられる。）



（3）学校規模適正化の方策について

① 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて（2つまで選択可）

<table>
<tr><th>地区</th><th colspan="2">1位</th><th colspan="2">2位</th><th colspan="2">3位</th></tr>
<tr><td>荻野地区</td><td rowspan="4">通学に係る児童・生徒の負担が大きくならないこと（必要に応じて通学負担軽減の方策が図られることを含む）</td><td>40.1%</td><td rowspan="4">通学路の見直しや整備など、通学の安全性が確保されること</td><td>25.3%</td><td rowspan="3">長期的に一定の集団規模を維持でき、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成などが図られること※1</td><td>14.3%</td></tr>
<tr><td>小鮎地区</td><td>42.3%</td><td>29.2%</td><td>12.4%</td></tr>
<tr><td>玉川地区</td><td>40.6%</td><td>25.1%</td><td>16.2%</td></tr>
<tr><td>森の里地区</td><td>34.2%</td><td>15.5%</td><td>どれだけ小規模になっても学校の統廃合は行わず、全ての学校が維持されること※1</td><td>13.2%</td></tr>
</table>

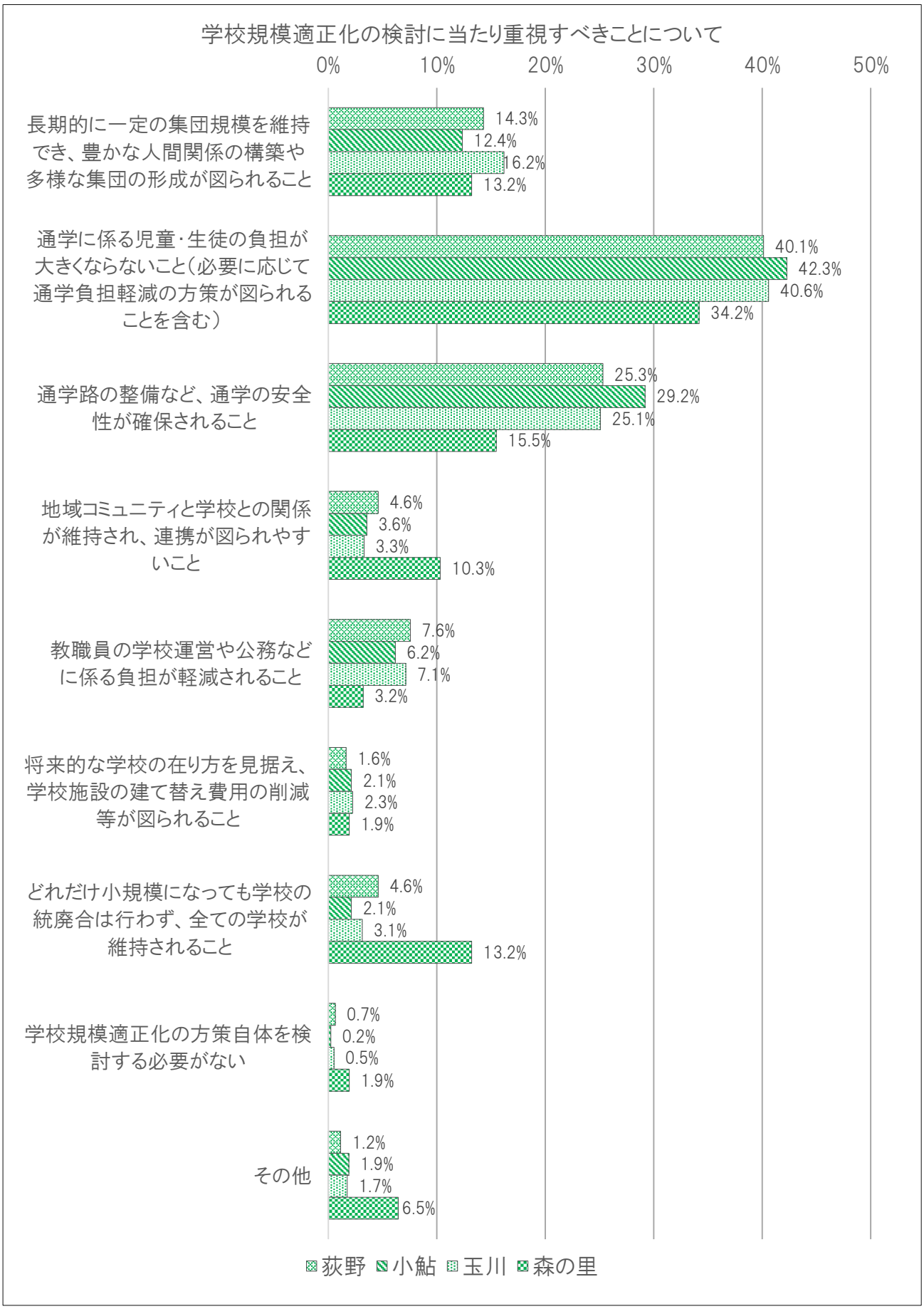
※1…森の里地区は、3位が同率（13.2%）のため両方記載している。

回答の傾向

・全ての地区で、同じ順位となっている。

・1位、2位は両方とも通学に関することで、「通学の負担が大きくならないこと」、「通学の安全性が確保されること」が選択されている。特に「通学の負担が大きくならないこと」は2位以下と比較し、高い選択割合となっており、学校規模適正化の検討に当たり、保護者は通学の負担に関わることを重視していると考えられる。

・3位は「長期的に一定の集団規模を維持」が選択されているが、森の里地区については同率で「どれだけ小規模になっても学校の統廃合を行わない」が選択されており、「長期的に一定の集団規模を維持」とは異なる考え方をもつ保護者が同割合存在していることがうかがえる。なお、「学校の統廃合を行わない」の選択割合は森の里地区のみ高い選択割合（13.2%）となっており、他の3地区では全て 5.0%未満となっている。


学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて
0%
10%
20%
30%
40%
50%
長期的に一定の集団規模を維持でき、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られること
14.3%
12.4%
16.2%
13.2%
通学に係る児童・生徒の負担が大きくならないこと（必要に応じて通学負担軽減の方策が図られることを含む）
40.1%
42.3%
40.6%
34.2%
通学路の整備など、通学の安全性が確保されること
25.3%
29.2%
25.1%
15.5%
地域コミュニティと学校との関係が維持され、連携が図られやすいこと
4.6%
3.6%
3.3%
10.3%
教職員の学校運営や公務などに係る負担が軽減されること
7.6%
6.2%
7.1%
3.2%
将来的な学校の在り方を見据え、学校施設の建て替え費用の削減等が図られること
1.6%
2.1%
2.3%
1.9%
どれだけ小規模になっても学校の統廃合は行わず、全ての学校が維持されること
4.6%
2.1%
3.1%
13.2%
学校規模適正化の方策自体を検討する必要がない
0.7%
0.2%
0.5%
1.9%
その他
1.2%
1.9%
1.7%
6.5%
荻野
小鮎
玉川
森の里

（4）地域における学校の役割について

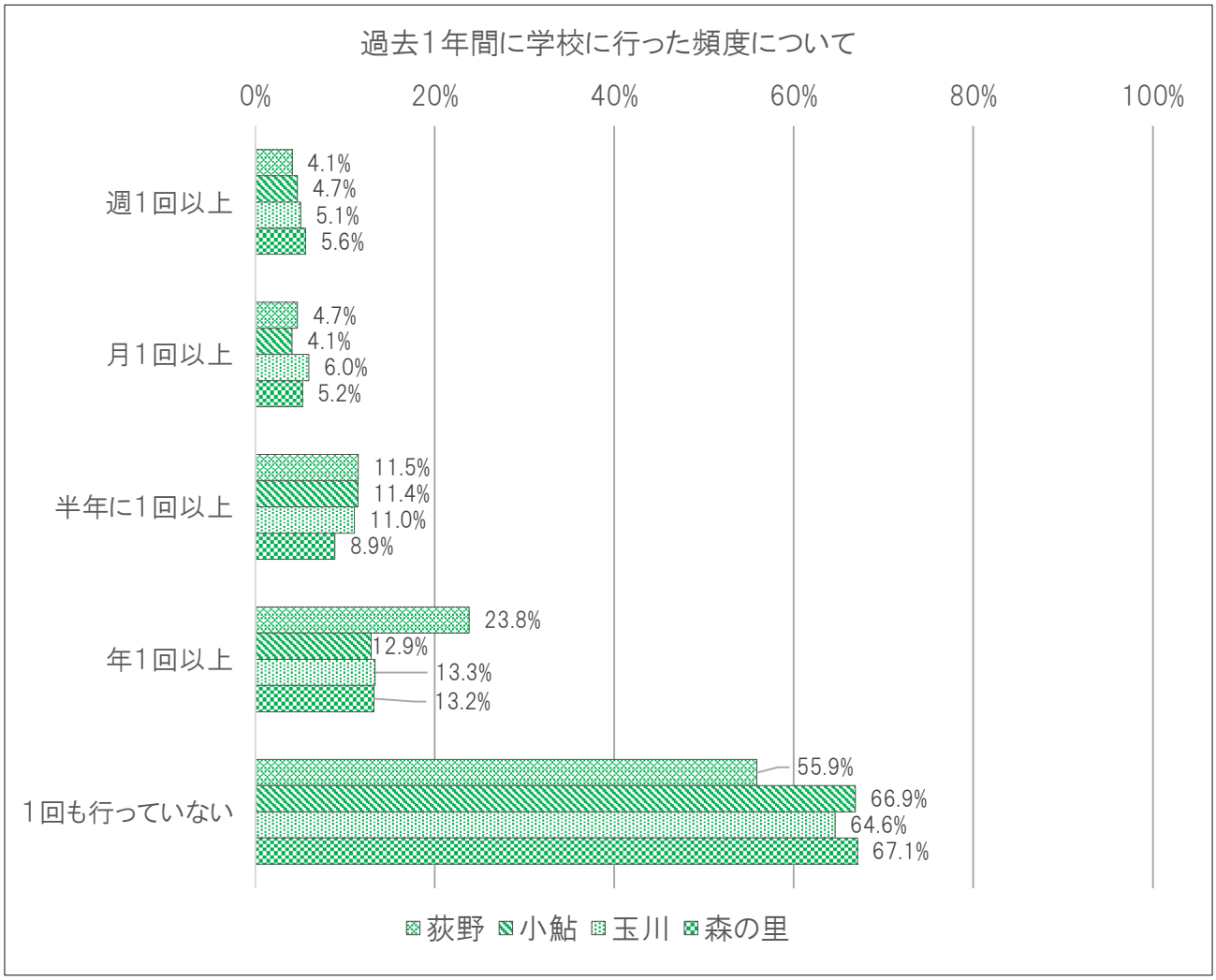
① 過去1年間に学校に行った頻度について

地区	1位		2位		3位	
荻野地区	1回も行っていない	55.9%	年1回以上	23.8%	半年に1回以上	11.5%
小鮎地区		66.9%		12.9%		11.4%
玉川地区		64.6%		13.3%		11.0%
森の里地区		67.1%		13.2%		8.9%

回答の傾向

・全ての地区で、同じ順位となっている。

・どの地区でも、回答者の 50～60%程度は年間で1回も学校には行っていない。



【①で「1回も行っていない」を除く回答をした選択者のみの設問】

② 過去1年間に学校に行った理由について（いくつでも選択可）

<table>
<tr><th>地区</th><th colspan="2">1位</th><th colspan="2">2位</th><th colspan="2">3位</th></tr>
<tr><td>荻野地区</td><td>選挙での投票</td><td>33.7%</td><td>学校行事（例：運動会や発表会、授業参観など）</td><td>22.2%</td><td rowspan="2">子どもの見送りやお迎え（例：児童クラブなど）</td><td>8.9%</td></tr>
<tr><td>小鮎地区</td><td rowspan="3">学校行事（例：運動会や発表会、授業参観など）</td><td>23.9%</td><td>選挙での投票</td><td>20.1%</td><td>14.5%</td></tr>
<tr><td>玉川地区</td><td>23.0%</td><td>避難訓練などの防災関係活動</td><td>15.3%</td><td rowspan="2">体育館や校庭などを利用した活動（例：スポーツ・文化活動など）</td><td>14.2%</td></tr>
<tr><td>森の里地区</td><td>21.6%</td><td>地域（例：町内会・自治会、子ども会など）の会合・行事</td><td>16.1%</td><td>避難訓練などの防災関係活動※1</td><td>12.7%</td></tr>
</table>

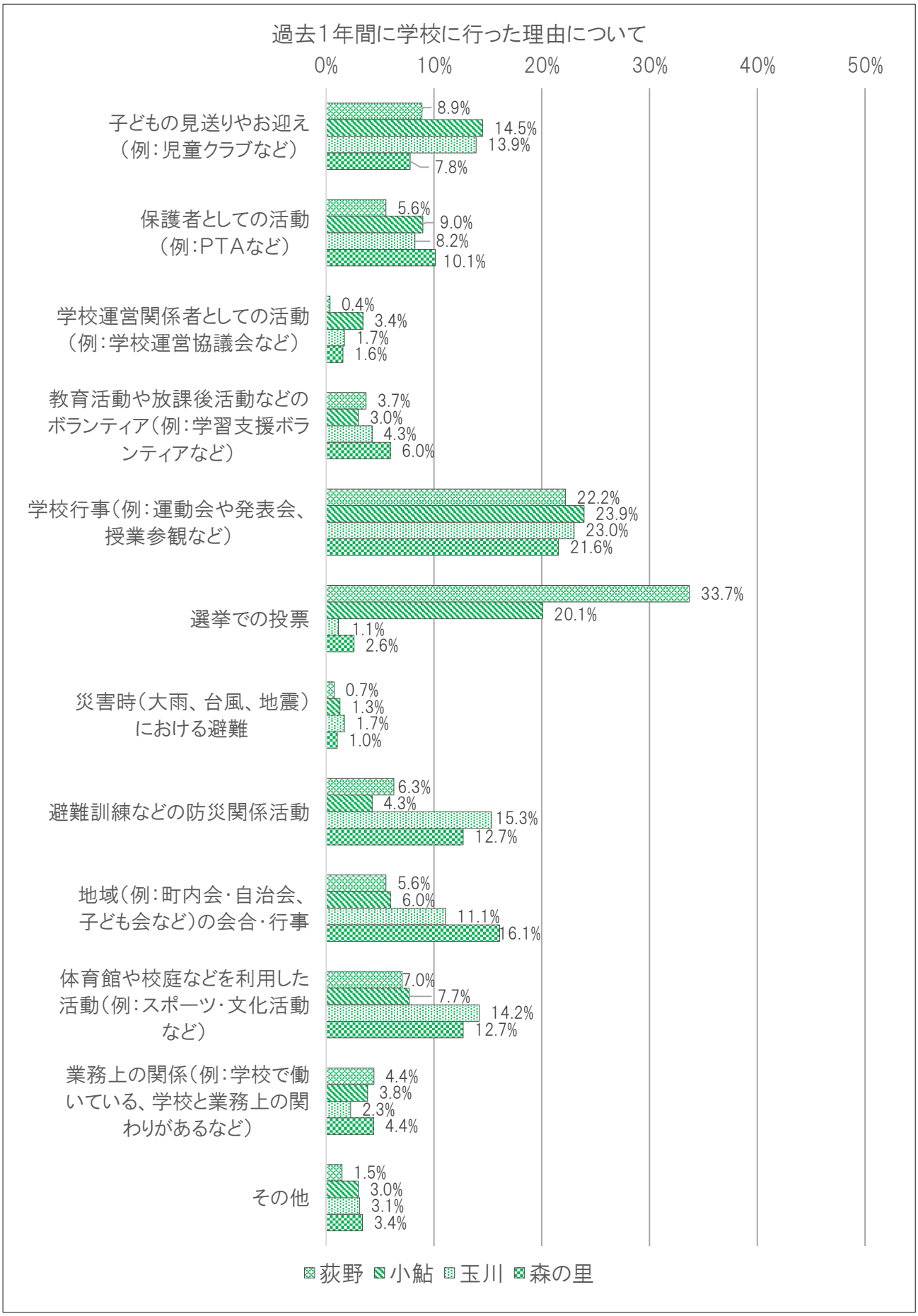
※1…森の里地区は、3位が同率（12.7%）のため両方記載している。

回答の傾向

・どの地区でも「学校行事」や「子どもの見送りやお迎え」など、保護者としての立場で学校に行っている割合が高い。

・地域コミュニティ関連では「防災関係活動」や「地域の会合・行事」、「体育館などを利用した活動」などで学校に行っている割合が高い。

・学校が投票所となっている地区は、「選挙での投票」で学校に行っている割合が高い。


過去1年間に学校に行った理由について
0%
10%
20%
30%
40%
50%
子どもの見送りやお迎え（例：児童クラブなど）
8.9%
14.5%
13.9%
7.8%
保護者としての活動（例：PTAなど）
5.6%
9.0%
8.2%
10.1%
学校運営関係者としての活動（例：学校運営協議会など）
0.4%
3.4%
1.7%
1.6%
教育活動や放課後活動などのボランティア（例：学習支援ボランティアなど）
3.7%
3.0%
4.3%
6.0%
学校行事（例：運動会や発表会、授業参観など）
22.2%
23.9%
23.0%
21.6%
選挙での投票
33.7%
20.1%
1.1%
2.6%
災害時（大雨、台風、地震）における避難
0.7%
1.3%
1.7%
1.0%
避難訓練などの防災関係活動
6.3%
4.3%
15.3%
12.7%
地域（例：町内会・自治会、子ども会など）の会合・行事
5.6%
6.0%
11.1%
16.1%
体育館や校庭などを利用した活動（例：スポーツ・文化活動など）
7.0%
7.7%
14.2%
12.7%
業務上の関係（例：学校で働いている、学校と業務上の関わりがあるなど）
4.4%
3.8%
2.3%
4.4%
その他
1.5%
3.0%
3.1%
3.4%
荻野
小鮎
玉川
森の里

③　地域における学校の役割で重要なことについて（2つまで選択可）

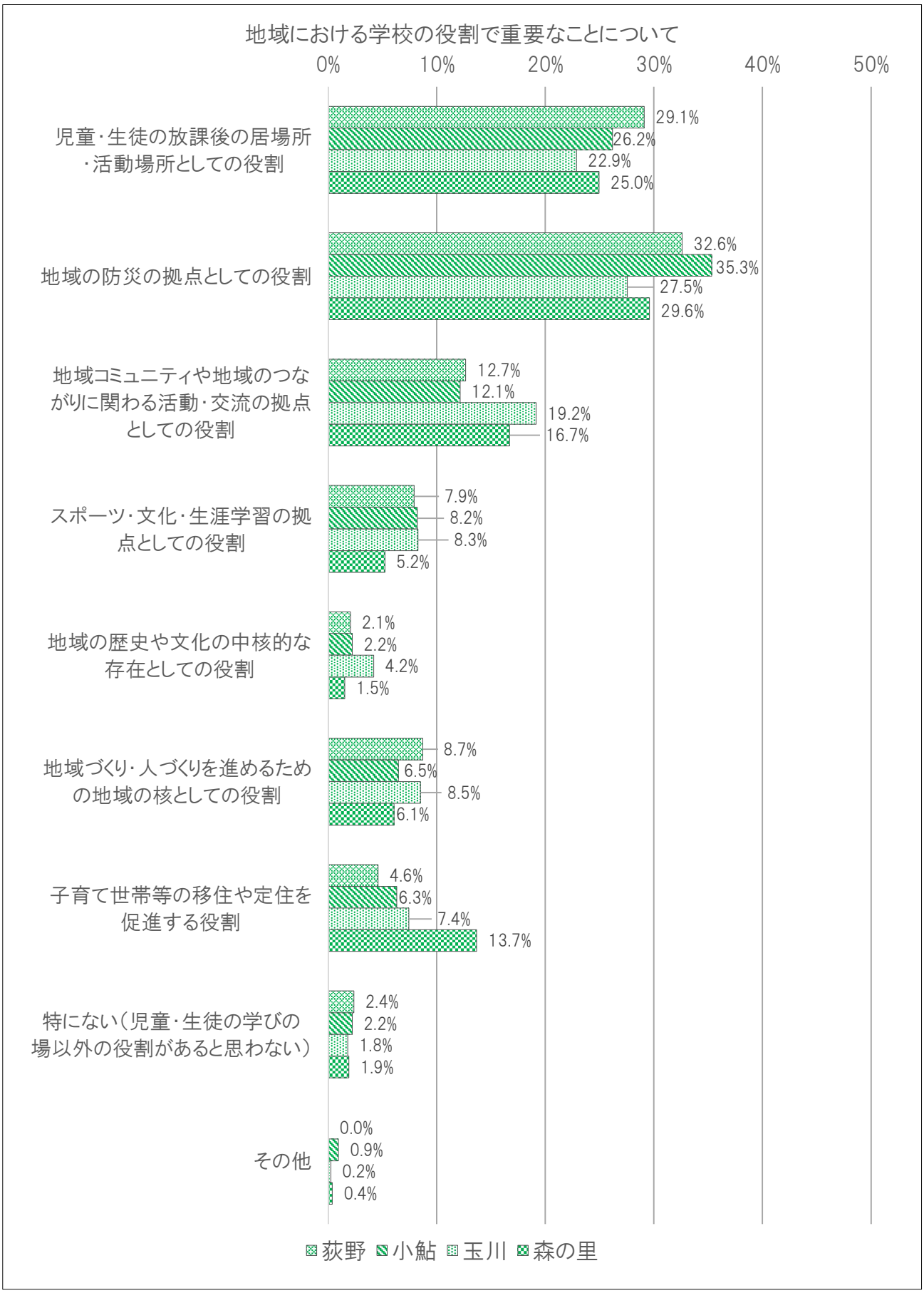
地区	1位		2位		3位	
荻野地区	地域の防災の拠点としての役割	32.6%	児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割	29.1%	地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割	12.7%
小鮎地区		35.3%		26.2%		12.1%
玉川地区		27.5%		22.9%		19.2%
森の里地区		29.6%		25.0%		16.7%

回答の傾向

・全ての地区で、同じ順位となっている。

・「地域の防災の拠点」、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」などのハードとしての学校施設の役割を重視した選択割合が高い。一方、「地域の歴史や文化の中核的な存在」や「地域づくり・人づくりを進めるための核としての役割」などの学校が有するソフト面の役割に対する選択割合は、ハード面と比較すると低くなっている。

・森の里地区では、「子育て世帯等の移住や定住を促進する役割」の選択割合が、他の地区と比較して高い。（森の里地区は 13.7%、他の地区は4～7%程度）


地域における学校の役割で重要なことについて
0%
10%
20%
30%
40%
50%
児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割
29.1%
26.2%
22.9%
25.0%
地域の防災の拠点としての役割
32.6%
35.3%
27.5%
29.6%
地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割
12.7%
12.1%
19.2%
16.7%
スポーツ・文化・生涯学習の拠点としての役割
7.9%
8.2%
8.3%
5.2%
地域の歴史や文化の中核的な存在としての役割
2.1%
2.2%
4.2%
1.5%
地域づくり・人づくりを進めるための地域の核としての役割
8.7%
6.5%
8.5%
6.1%
子育て世帯等の移住や定住を促進する役割
4.6%
6.3%
7.4%
13.7%
特にない（児童・生徒の学びの場以外の役割があると思わない）
2.4%
2.2%
1.8%
1.9%
その他
0.0%
0.9%
0.2%
0.4%
荻野
小鮎
玉川
森の里

④ 学校規模適正化に当たり教育環境の充実以外に考慮すべきことについて（2つまで選択可）

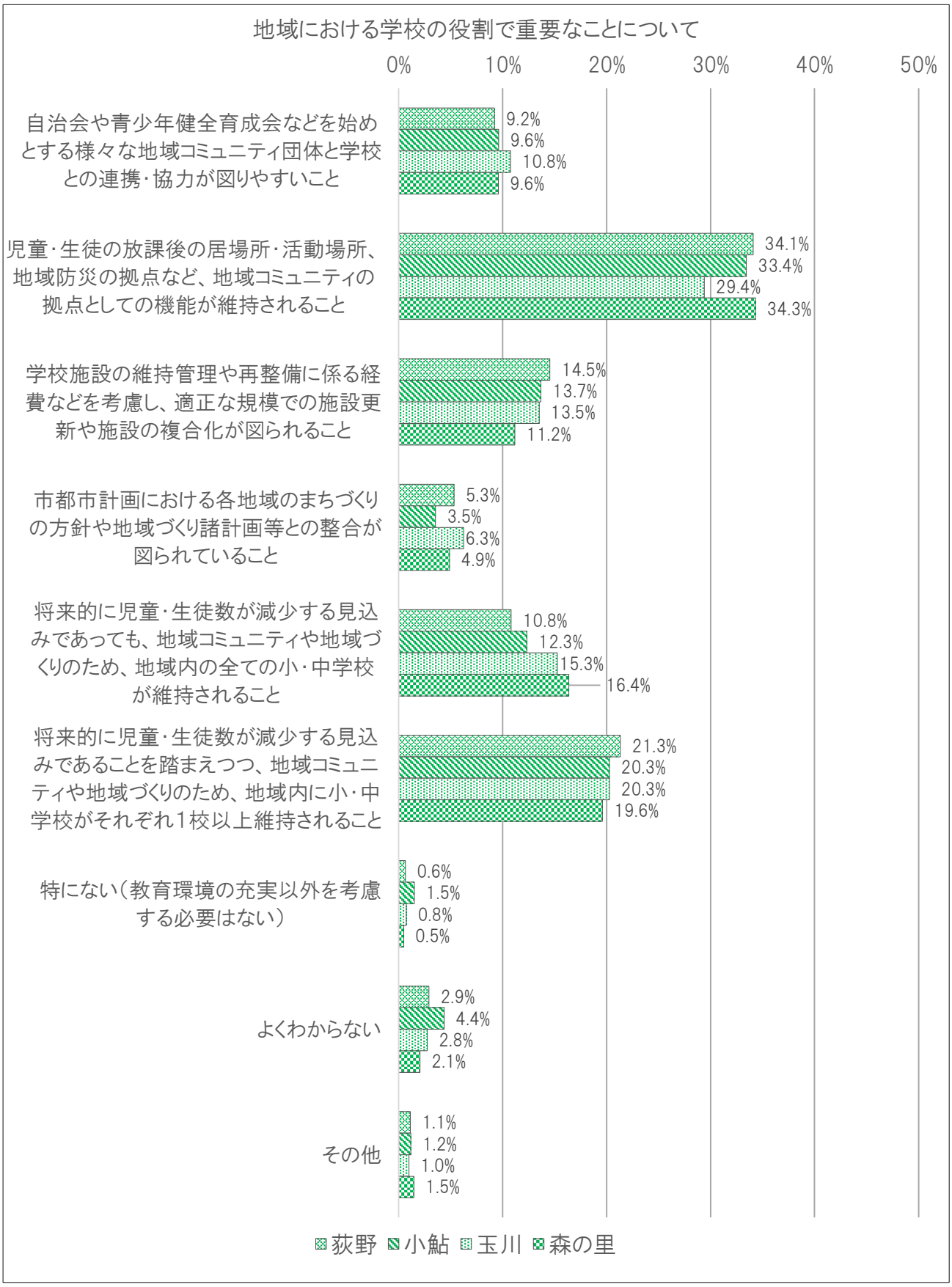
<table>
<tr><th>地区</th><th colspan="2">1位</th><th colspan="2">2位</th><th colspan="2">3位</th></tr>
<tr><td>荻野地区</td><td rowspan="4">児童・生徒の放課後の居場所・活動場所、地域防災の拠点など、地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること</td><td>34.1%</td><td rowspan="4">将来的に児童・生徒数が減少する見込みであることを踏まえつつ、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内に小・中学校がそれぞれ1校以上維持されること</td><td>21.3%</td><td rowspan="2">学校施設の維持管理や再整備に係る経費などを考慮し、適正な規模での施設更新や施設の複合化が図られること</td><td>14.5%</td></tr>
<tr><td>小鮎地区</td><td>33.4%</td><td>20.3%</td><td>13.7%</td></tr>
<tr><td>玉川地区</td><td>29.4%</td><td>20.3%</td><td rowspan="2">将来的に児童・生徒数が減少する見込みであっても、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内の全ての小・中学校が維持されること</td><td>15.3%</td></tr>
<tr><td>森の里地区</td><td>34.3%</td><td>19.6%</td><td>16.4%</td></tr>
</table>

回答の傾向

・1位、2位は全ての地区で同じ順位になっており、特に「地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること」は2位以下と比較し、約 10%以上高くなるなど、地域としてコミュニティの拠点機能の維持が重要であると考えていることがうかがえる。

・2位、3位について、荻野・小鮎地区では、「地域に小・中学校がそれぞれ1校以上維持」しつつ、「施設の維持管理や再整備に係る経費などを考慮し、適正な規模での施設更新等が図られること」が重視されている。

・2位、3位について、玉川・森の里地区では、「地域に小・中学校がそれぞれ1校以上維持」に加え、「地域内の全ての小・中学校が維持されること」が選択されており、これは、玉川地域に玉川地区・森の里地区の2地区が含まれており、各地区に小・中学校がそれぞれ1校ずつある現状を踏まえ、地区を意識した学校の在り方を考慮した上での選択である可能性が考えられる。


地域における学校の役割で重要なことについて
0%
10%
20%
30%
40%
50%
自治会や青少年健全育成会などを始めとする様々な地域コミュニティ団体と学校との連携・協力が図りやすいこと
9.2%
9.6%
10.8%
9.6%
児童・生徒の放課後の居場所・活動場所、地域防災の拠点など、地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること
34.1%
33.4%
29.4%
34.3%
学校施設の維持管理や再整備に係る経費などを考慮し、適正な規模での施設更新や施設の複合化が図られること
14.5%
13.7%
13.5%
11.2%
市都市計画における各地域のまちづくりの方針や地域づくり諸計画等との整合が図られていること
5.3%
3.5%
6.3%
4.9%
将来的に児童・生徒数が減少する見込みであっても、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内の全ての小・中学校が維持されること
10.8%
12.3%
15.3%
16.4%
将来的に児童・生徒数が減少する見込みであることを踏まえつつ、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内に小・中学校がそれぞれ1校以上維持されること
21.3%
20.3%
20.3%
19.6%
特にない（教育環境の充実以外を考慮する必要はない）
0.6%
1.5%
0.8%
0.5%
よくわからない
2.9%
4.4%
2.8%
2.1%
その他
1.1%
1.2%
1.0%
1.5%
荻野
小鮎
玉川
森の里

（5）地域に学校を維持することについて

① 各地域内に学校を維持することについて

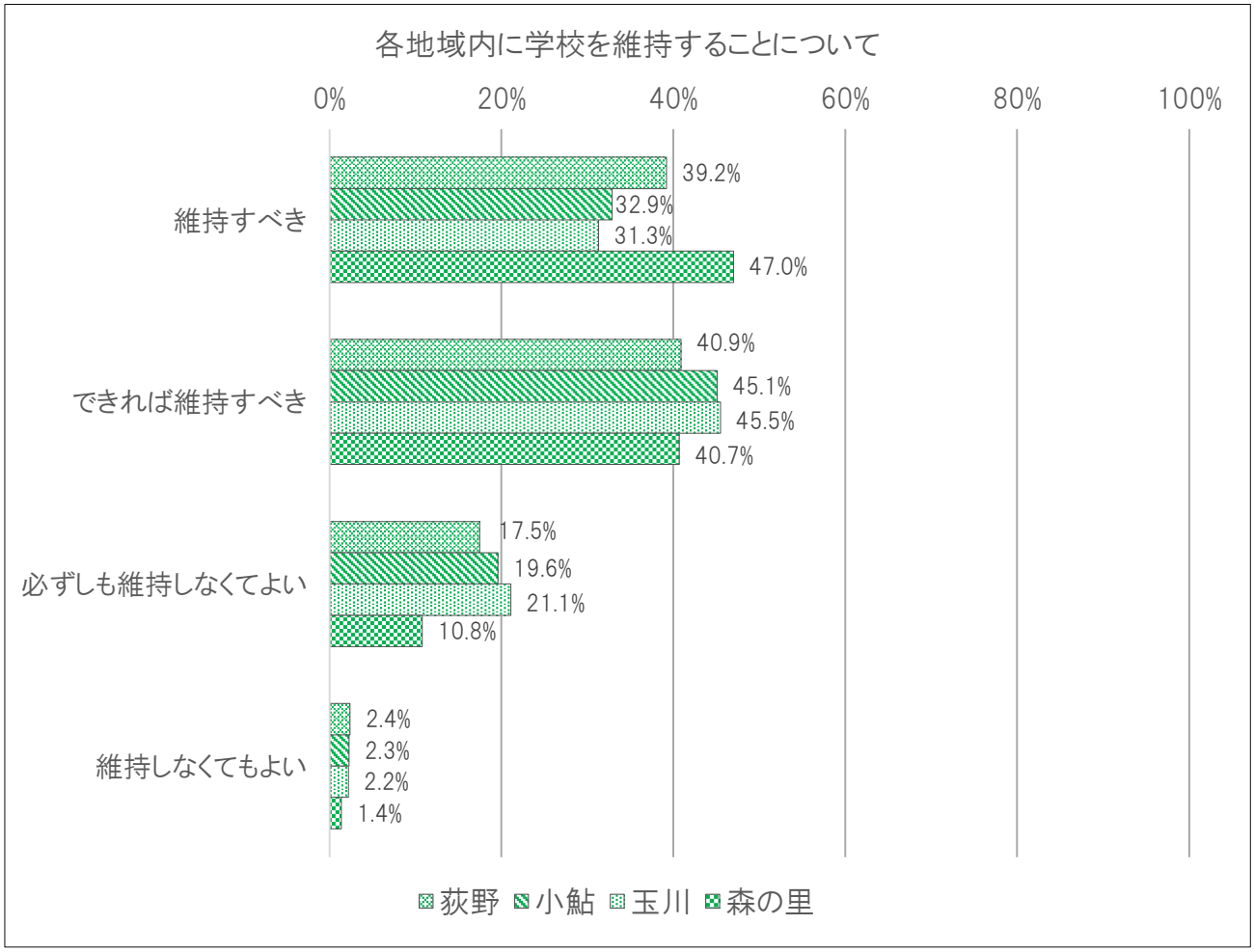
地区	1位		2位		3位	
荻野地区	できれば維持すべき	40.9%	維持すべき	39.2%	必ずしも維持しなくてよい	17.5%
小鮎地区		45.1%		32.9%		19.6%
玉川地区		45.5%		31.3%		21.1%
森の里地区	維持すべき	47.0%	できれば維持すべき	40.7%		10.8%

回答の傾向

・全ての地区で「維持すべき」、「できれば維持すべき」を合わせた割合が、75～90%程度となっており、大多数の方ができるだけ地域内に学校を維持することが望ましいと考えていることがうかがえる。

・特に森の里地区は、他の3地区の1位が「できれば維持すべき」であるのに対し、「維持すべき」が1位になっており、その選択割合も 47.0%と他の3地区と比較して高くなっている。

・「維持しなくてもよい」、「必ずしも維持しなくてもよい」を合わせた割合は、全ての地区で 10～25%程度と比較的低い割合になっている。



【玉川地域（玉川地区・森の里地区）のみ設問】

② 玉川地区・森の里地区内に学校を維持することについて

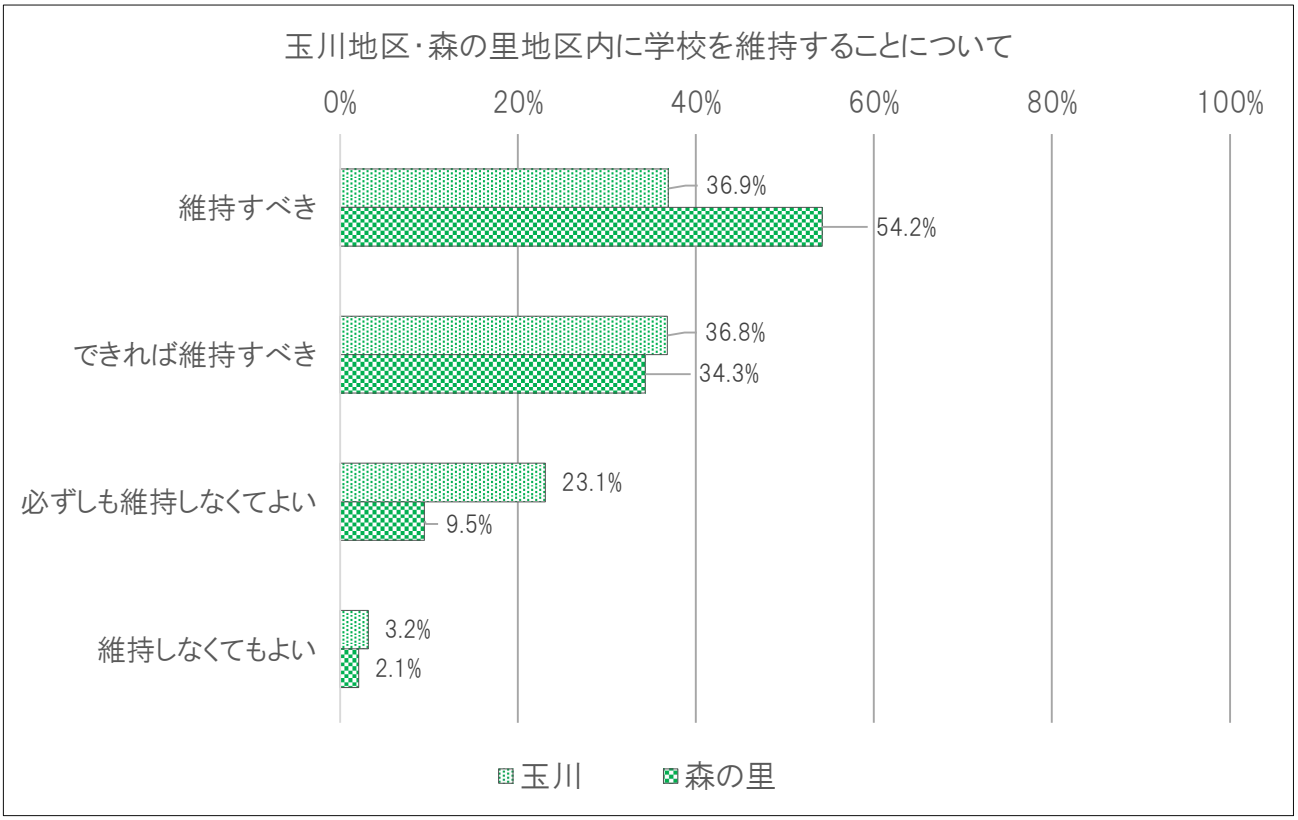
地区	1位		2位		3位	
玉川地区	維持すべき	36.9%	できれば維持すべき	36.8%	必ずしも維持しなくてよい	23.1%
森の里地区		54.2%		34.3%		9.5%

回答の傾向

・両地区とも同じ順位となっている。

・「維持すべき」、「できれば維持すべき」を合わせた割合が、玉川地区では 73.7%、森の里地区では 88.5%となっている。また、両地区とも1位に「維持すべき」が選択されるなど、大多数の方ができるだけ地区に学校を維持することが望ましいと考えていることがうかがえる。

・両地区とも、一つ前の設問である「各地域内に学校を維持することについて」と比較し、「維持すべき」の選択割合が高くなっており、地区に学校を維持することに対する意識が強いものと考えられる。



（6）適正規模・適正配置の取組への意見等について

① 適正規模・適正配置の取組への意見・提案について

地区	自由記述回答数
荻野地区	174 件
小鮎地区	145 件
玉川地区	231 件
森の里地区	305 件
全体	855 件

回答の傾向

・自由記述による回答内容については、次の傾向が見られた。

地区	順位	区分	件数
荻野地区	1位	取組の考え方・進め方・スケジュール	91 件
	2位	通学関係	31 件
	3位	教育環境	23 件
小鮎地区	1位	通学関係	53 件
	2位	取組の考え方・進め方・スケジュール	52 件
	3位	地域づくり・地域コミュニティ	12 件
玉川地区	1位	取組の考え方・進め方・スケジュール	116 件
	2位	通学関係	50 件
	3位	教育環境	27 件
森の里地区	1位	取組の考え方・進め方・スケジュール	121 件
	2位	地域づくり・地域コミュニティ	60 件
	3位	教育環境	59 件

※区分は、「取組の考え方・進め方・スケジュール」、「教育環境」、「通学関係」、「地域づくり・地域コミュニティ」、「その他」の5区分で分類。「その他」は順位には含めていません。